

内側膝蓋大腿靭帯再建術後の主観的評価に 影響を及ぼす因子の検討

○柴田 洋平 (しばた ようへい) (PT)¹⁾, 松下 雄彦 (MD)²⁾, 荒木 大輔 (MD)²⁾,
木田 晃弘 (PT)¹⁾, 瀧口 耕平 (PT)¹⁾, 上田 雄也 (PT)^{1), 3)}, 小野 くみ子 (PT)³⁾,
神崎 至幸 (MD)²⁾, 酒井 良忠 (MD)⁴⁾, 黒田 良祐 (MD)²⁾

¹⁾ 神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション科

²⁾ 神戸大学大学院 医学研究科 整形外科

³⁾ 神戸大学大学院 保健学研究科

⁴⁾ 神戸大学大学院 医学研究科 リハビリテーション機能回復学

【目的】

内側膝蓋大腿靭帯 (MPFL) 再建術後の主観的評価に影響を及ぼす因子を検討すること。

【対象と方法】

2012年4月～2015年9月に反復性膝蓋骨脱臼に対してHamstrings腱を用いてMPFL再建術を行った35名のうち、手術歴が無く片側例であり、かつ術後1年のフォローアップが行えた20名 (男性6名, 女性14名, 年齢 21 ± 8 歳) を対象とした。術後1年時に主観的評価としてKnee Injury and Osteoarthritis Outcome score (KOOS) を用い、スポーツ及びレクリエーション活動 (Sp), 症状 (Sy), QOL (Q), 痛み (P), 日常生活 (A) の各尺度を評価した。まず、性差や受傷前スポーツ活動の有無で2群に分け比較検討を行った。受傷前スポーツ活動はTegner Activity Scaleにて5以上を有りとした。次に、KOOSの各尺度の点数と術後1年における膝伸展筋力や個人因子 (年齢, BMI) との相関関係を調べた。膝伸展筋力はMYORET-RZ450を用い、等尺60°における患側体重比及び健患比を測定して評価した。群間の比較はウィルコクソンの順位和検定にて、相関についてはSpearmanの順位相関係数あるいはPearsonの積率相関係数を用いて検討した。有意水準は5%とした。

【結果】

男女間や受傷前スポーツ活動有り群と無し群の間に有意な差を認めなかった。膝伸展筋力の患側体重比とSp, Aの点数との間に中等度の相関を、膝伸展筋力の健患比とSy, Aの点数との間に中等度の相関を認めた。一方Q, Pについては個人因子や筋力との相関を認めなかった。

【考察】

MPFL再建術後の患者において術後膝伸展筋力は、主観的評価に影響を及ぼすことが示唆された。